

1 学校教育目標

校訓	『常に善を追い求めよ 常に喜べ絶えず祈れ すべてのこと感謝せよ』 ～キリスト教主義による教育の展開～
めざす学校像	成長実感のもてる学校 ～「増えた・できた・広がった」が溢れる学び舎に～
教育目標	社会に貢献できる人材の育成

2 現状分析

令和6年度の入学生は201名、2年生は176名、3年生は178名で、全校生徒555名となり、生徒数は前年度比4名の増となった。少子化が進む中、本校第一志願入学者の増加を図るべく、教育内容の充実発展はもとより、部活動における優秀選手や学習成績優秀者の入学促進とともに、学力中低層でも明確な意欲を有する者の確保などに努めた。導入6年目となる一般入試での成績優秀奨学生制度での入学は得られなかった。今後とも、より多くの人に本校の良さを知って頂けるよう学校行事等の積極的に地域公開、ホームページ等での情報発信を進める。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

- ①学び続けるための基盤となるスキルと態度を育む[学び方を学ばせる、ICT活用で個別最適な学びを実現する、探究的な活動で協働的に学ぶ]
②心身の健康を保持増進する意識を醸成し実践力を育む[生活習慣の改善に取り組む、人間関係力を高める、特別活動や部活動で伸ばす]
③変化する社会に対応し主体的な判断や行動ができる力を育む[安全で適切なSNS活用へ導く、自己肯定感を高める、地域交流で社会とつながる]

4 自己評価

5 学校関係者評価

領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	意見・要望等	評価
学習指導	・基礎学力向上を目に見える成果で ・「わかる授業、参加する授業」の確立 ・総合的な探究の時間のモデル構築	・ICT教材の積極的利用と基礎力診断テストへの計画的取組と結果の分析 ・校内研究授業の実施と端末の効果的利用の推進 ・総合的な探究の時間の実施計画の確立	4 総合実施率80%以上 3 総合実施率70%以上 2 総合実施率60%以上 1 総合実施率60%未満	3	・総合的な探究の時間については教員の意識向上により無理のない内容決定ができた ・教科を指定(国語・数学)した校内研究授業を実施した ・利用教員に限られているICT教材や基礎力診断テストの事後活用の温度差については改善が必要である	・総合的な探究については複数年間での計画に期待したい ・公開授業の刷新的な取り組みを継続して行っていただきたい	B
	生徒指導	・社会性と道徳心の育成 ・目標に向かって努力できる生徒の育成 ・ルールの遵守と交通安全を常に心がける生徒の育成	・生徒指導アンケートやシグナルチェックによる情報収集に努め問題傾向を把握し具体的な指導方法を実践する ・過去のデータを基に年間指導計画を作成し月ごとに重点目標を定める。 ・交通事故と盗難の防止、校則の見直し	4 総合実現率80%以上 3 総合実現率70%以上 2 総合実現率60%以上 1 総合実現率60%未満	4	・警察(生活安全課、交通課)と親密に連携し、本校の立場を踏まえた配慮をいただいた ・校内での盗難事象は見られなかった ・シグナルチェックの有効活用ができた ・頭髮服装等の指導基準や指導方法について、更なる見直しが必要である	・外部の評判、評価が高く、本校の強みとして今後更に充実させ定着を図っていく ・校則の見直しについての協議・提案を期待したい
進路指導	・生徒の自己実現を図るための聖光キャリア教育を確立する	・アイデンティティ確立サポートにより、自信とやる気、未来を見つめる力を養う ・スキルアップサポートにより、向上心・キャリアアップにつながる力を養う ・進路実現サポート、対策・戦略サポートに取り込む	4 総合実現率80%以上 3 総合実現率70%以上 2 総合実現率60%以上 1 総合実現率60%未満	3	・Classroomでのキャリアパスポート配信により、振り返りの定着が見られた ・スロウ手帳の活用が拡大した ・求人票や受験報告書をデジタル化し、閲覧しやすくなった ・ガイダンスや模擬授業を年3回実施できた ・難関大学への進学実績は出せなかった	・進学の個別指導に要する時間が長く、関係教員の負担は大きいのが、成果につながりつつある。	A
	募集対策	・受験者数1000名、入学者数230名以上確保 ・中学生に本校の強みの見える化を図る	・中学校訪問で信頼を確保し、特に進学指導の取り組みを強く訴えられる ・各科による出前授業の発信で各学科の特色をPRする	4 総合実現率80%以上 3 総合実現率70%以上 2 総合実現率60%以上 1 総合実現率60%未満	4	・学校案内配布や進路説明会参加、中学校担当教員による訪問等で募集に努めた ・社会福祉科の小中学校訪問、総合ビジネス科の小中学校出前授業を行った	・学校要覧、学校案内の配布範囲の拡大 ・オープンスクール年2回開催の定着化 ・こまめな中学校訪問
業務改善	学校の組織等 学年会議・教科会議 協働体制の強化を図る	・教科会議による指導法の工夫と共有化の徹底 ・学年会議を軸にした共通・協働姿勢の強化	4 総合実現率80%以上 3 総合実現率70%以上 2 総合実現率60%以上 1 総合実現率60%未満	3	・最優先すべき教科指導の工夫改善が、多忙な中で、やや停滞気味である。 ・学年行事や生徒指導などでの学年団の協働姿勢は高く評価できる。	・今後も組織力の強化を図ることが更に必要である。	B
	日常的な業務 校務の処理方法を見直し効率化を図る	・事前の調整、起案・決裁等の文書事務の改善	4 総合実現率80%以上 3 総合実現率70%以上 2 総合実現率60%以上 1 総合実現率60%未満	3	・会議におけるペーパーレス化は達成している。 ・文書事務は改善しつつあるがより一層のチェック機能、情報の共有化を図る必要がある。	・業務を遂行する中で、工夫やアイデアが生まれつつある。	
	勤務状態 綱紀保持の徹底 教員の意識改革を図る	・管理職による啓発活動の促進 ・組織の一員として業務に向き合う姿勢の確立	4 総合実現率80%以上 3 総合実現率70%以上 2 総合実現率60%以上 1 総合実現率60%未満	4	・教員は使命感や責任感が強く情熱もあり、労を惜まず取り組んでいる。 ・担当業務に関する個人のスキルが高いため担当者任せになりがちである。	・人権意識を高め、保護者が安心できる指導の実践を求める。	

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

- ① 学習面においては、導入から4年目となった一人一台端末の活用により、「スタディサプリ」、「すらら」といったICT教材を利用した学習を活性化させ、生徒の学習意欲・学習習慣の醸成と能力・適性に応じた学力向上に努めた。
- ② 就職では、組織を挙げての求人活動・面接指導・受験指導等に当たり、就職希望者の100パーセントの内定20年連続を達成し、大手企業を含め県内を中心に人材を送り出した。進学においては、現役生の国立大学合格が無く、公立大学合格が4名に留まった。
- ③ 令和7年度入試においては、推薦・AO入試共に前年度並みの志願者数(推薦2名増)となり、入学者数も合わせて前年比2名増の128名となった。また一般入試においては、志願者数が709名と昨年度比86名減となり、入学者数が前年比24名減の51名に留まり、計179名(22名減)の入学生となった。公立2次試験による入学辞退者は5名に留まったが、地元ながら入学者数を大きく減らした中学校が見られることから、選ばれる学校となるための、更なる教育力の向上と生徒募集の工夫が必要である。

7 次年度への改善策

- ①学び続けるための基盤となるスキルと態度を育む[学び方を学ばせる、ICT活用で個別最適な学びを実現する、探究的な活動で協働的に学ぶ]
②互いを尊重し他者とよりよく生活する力を育む[前向きな言葉を使う、感情や行動を調節する力を高める、特別活動や部活動で伸ばす]
③変化する社会に対応し主体的な判断や行動ができる力を育む[安全で適切なSNS活用へ導く、考え判断する機会を増やす、キャリア教育で伸ばす]

本年度の成果と課題を踏まえ、①による学習指導、②による心身の健康、③による社会性の構築に取り組む